

メンニヤ

面谷貯木場

国際貿易港「七尾港」。LPG国家備蓄基地完成に伴い、ますます重要性を増している。

七尾港は古くから木材の取扱が盛んである。近年は、取扱木材のほとんどを陸揚げしているが、以前は海面に荷おろしするのが普通であった。今も矢田新や大田に海面貯木場を見ることができる。

かつては、筏に組まれた木材が、これらの貯木場の水面を埋める姿を普通に見ることができた。

昭和40年代には取扱量が増え、矢田新や大田の貯木場では足りず、面谷貯木場を使っていた。面谷貯木場はメンニヤ（免屋入江）にあった。

貯木場時代の名残を求めて船でメンニヤへ向かってみた。

「メンニヤ」

メンニヤは能登島佐波町と能登島向田町にまたがる七尾南湾唯一の入江である。ここは入り口から見るとそう広くは見えないが、中へ入ると陸地へかなり深く入り込んでいることがわかる。波静かな七尾湾のさらに入江ということで海面はとても穏やかである。海中に根元を浸した木々や水面まで伸びた枝を見ていると湖にいたのではないかと錯覚をおこすほどである。

当時の話を聞くと、ここには7万



男 穴

m³（約62万t）の木材が浮かんでいたそうである。ここへの搬入は「丸アバ」³という木材を鎖でつないで作った枠の中に、仮結束した「タンコロ」といわれる丸太を筏状にしたものを入れて、曳航したそうである。入江の中を周ってみると、台船をつけていたであろう棧橋の跡と筏をつないでいたと思われる2本の杭が当時をしのばせている。

二穴洞穴

入江を出ると、東岸の絶壁に二つの洞穴が見えてくる。能登島二穴町の集落西南にいたこれらの洞穴は、「二穴」の地名の由来となったといわれている。

大きな穴が「男（雄）穴」、小さな穴が「女（雌）穴」と呼ばれてい

る。また、昼波静かなときは男穴から、夜は女穴から光が発せられるというので「日穴」、「月穴」とも呼ばれる。

「男穴」・「女穴」

「男穴」に近づく中に入れそうであった。洞穴の下に船を着け、2mほど珪藻土の岩肌を登ると男穴の入り口がある。男穴へ入ると、中は思った以上に広がっている。かつて、雨乞いのお祈りに使われていた場所だという。

穴の中は薄暗いのだが、シダ類やコケ類の緑を観ることが出来る。穴の奥には水が溜まっており、中央にシダやコケに覆われた緑の小島がある。その姿はまるで日本庭園の池のようである。あまり日が差し込みそ